

因に、本提唱は、取り敢えず、江の諸組合に對して致しました。

- (関東地方)
 - 江東一徹労働組合
 - 純労働者組合同盟
 - 全口手中心組合
 - 東京地方製糖工業労働組合
 - 東京市後業員組合
 - 汽東会社後業員組合
 - 関東俸給生活者組合
 - 行田足袋取工組合
 - (中部地方)
 - 名港造船工組合
 - (関西地方)
 - 関西メック労働組合
 - 関西製米後業員組合
- 前、御面答は、総評議会本部へ所(東京市四谷區に新町二)へ依頼致します。
 - 賛成各組合の第一回の打ち合せを翌年八月十八日(水曜日)に開催したいと考へますか
 - ら成べく早く御面答下さいませと希望致します。尚、第一回の会合には、星
 - 邦代表者も御派遣願ひたいと思ひます。(会合についての詳細は三は直つて通知致します)
- 京都陶磁器工組合
- 日本瓦工組合
- 京都行商人組合
- 京都履物修繕工組合
- 京都皮革工組合
- 京都土木建築労働組合
- 神戸金装工組合
- (その他の地方)
 - 下関港灣労働組合
 - 九州統一労働組合同盟
 - 門司天板後業員組合
 - 〇全労神奈川製糖労働組合

聲明書

戦線統一を要する声は、今や全国各地に澎湃として捲き起つてゐる。これは、言ふまでもなく、強打する階級的労働組合の出現を望む大衆の声である。

我が国の労働組合運動は、今日まで、分裂に分裂を重ねて来た。これは様々の原因があるが、フアンシヨ乃至社会フアンシヨの陣営に轉落せる墮落幹部と、あくまで階級の方針を厳守せんとする幹部——並びにそれを支持する大衆——との間の拮据も、在りしかば、その原因の一つを占めてゐる。従来タラ幹共は正義派の攻撃に直面するや、常に大量の除名の政策、即ち組合分裂の政策を以つてそれに対抗して来たのである。かくれに場合にも、もし、階級的立場を厳守するものは、強大なる力と正しい戦術——過去の我々の運命には、久かり戦術的拙劣さがあつた——とがあつたらば、組合を分裂に導く代りに、タラ幹共を階級戦線から駆逐することが可能であつたに相違ないのやあるが、我國に於ては、不幸にして、タラ幹に対する拮据が、長くは組合の分裂を結果したのである。

故に、戦線統一の事業は一日も放棄せざるを得ない。階級的指導部は、全労働組合戦線の統一のために、不撓不屈の努力を掲げねばならぬのである。しかし、今日では最早や、労働組合の全線統一は、墮落幹部との妥協によつて實現せらるべきものや断じてない。階級的労働組合の大衆と、右翼組合の大衆とが、共同斗争を通じてかッナリ腕を結び、タラ幹共の分裂主義を粉碎